

奄美の風だより

発行・編集：奄美自然体験活動推進協議会

夏号 vol 2

NO. 5

2001. 8. 1

A N C : News Letter

例年になく猛暑が続いています。サンサンとふりそそぐ陽ざしはとても強く、夏本番といった感じです。晴れた日の海辺は太陽の光に反射してきらきら輝いています。7月の中旬ころ、あまりにも天気良かったのででかけてみました。海岸沿いを走行中ふと沖を眺めると、水面に顔をのぞかせた岩に海鳥が2羽いました。残念ながら素人の肉眼では何という鳥なのか確認することはできませんでした。護岸にはイソヒヨドリのオスがいました。また、浜辺には紫色のグンバイヒルガオや黄色のハマアズキの花が強い陽ざしのなか元気に咲いていました。島内には赤や黄色のハイビスカスも咲いています。亜熱帯の植物もこの時期は特別雰囲気があります。青い空、青い海、深いみどり・・・、夏は南の島の情緒がたっぷりです。



「ノボタン」



「イソヒヨドリ」



「グンバイヒルガオ」



「海鳥」

◆平成13年度協議会総会及び活動計画についての報告

平成13年5月9日（水）10時30分名瀬市「奄美会館会議室」にて、当協議会の総会が行われました。総会では平成12年度の活動報告及び収支決算、並びに13年度の活動計画、収支予算の承認がなされました。

平成13年度の活動（計画）については、前年度同様

- (1)情報の収集と提供（奄美地域の自然等の収集、季刊紙の発行）
 - (2)自然観察会及び講演会等の開催
 - (3)自然保護に対する普及啓発としてのパンフレットの作成
- などを奄美野生生物保護センターと連携を図りながら行っていきます。



§ 奄美野生生物保護センター&奄美自然体験活動推進協議会共催の“夏の行事”について

☛ クラフト教室「オリジナルハガキをつくろう！！」

日 時：平成13年7月28日（土）午後1時30分～3時

場 所：奄美野生生物保護センター

牛乳パックを利用してハガキをつくります。色をつけたり，できたハガキにイラストを描いたり，おし花などを貼ってハガキ（紙）をつくります。

☛ クラフト教室「小石のへんしん！～オリジナル作品をつくろう～」

日 時：平成13年8月5日（日）午後1時30分～4時

場 所：奄美野生生物保護センター

川や海，また道ばたなどにおちている小石を拾ってきて，絵の具で色をつけたり，くっつけたりして動物などの置物をつくります。ただの石ころがステキな置物に大変身します！。

☛ 「川の生きもの」講演会&観察会

① 日 時：平成13年8月8日（水）午後1時30分～4時30分

場 所：大和川，奄美野生生物保護センター（大和村）

② 日 時：平成13年8月9日（木）午後1時30分～4時30分

場 所：黒潮の森「マングローブパーク」（住用村）

川の冷たい水の中に足を入れ水の中をのぞいてみると・・・，いろんな川の生きものがいます。大和川やマングローブで「川の生きもの」を観察します。

☛ 自然のふれあい「奄美自然観察の森で遊ぼう！！」

日 時：平成13年8月15日（水）午前10時～午後3時

場 所：龍郷町「奄美自然観察の森」

森の中では，野生の生きものとのすてきな出会いがたくさんあります。そんな森の中で自然を観察したり，ゲームをしたり，自然にふれながら楽しく遊びます。

☛ クラフト教室「山のげいじゅつ家！～オリジナル作品をつくろう～」

日 時：平成13年8月22日（水）午後1時30分～3時

場 所：奄美野生生物保護センター

山へでかけ，落ちている木の枝や葉っぱ，まつぼっくりなどの木の実等を拾い集め，それらを使って写真たてや動物の置物などをつくります。

協議会活動報告



◆企画展と講演会『奄美の蝶の不思議』

講演会：平成13年4月29日(日)午後2:00～3:30

講師：森川義道先生(日本蝶類学会会員)

企画展：平成13年4月28日(土)～6月3日

場所：奄美野生生物保護センター「企画展示室」

【講演会・展示会の様子】

奄美野生生物保護センターのオープン1周年記念として、講師に森川義道先生をお招きして「奄美の蝶の不思議」と題して講演会及び展示会を協議会も共催で行いました。

講演会では、奄美で見られるチョウ（土着種）や迷チョウ、季節移動をするチョウなどを分かりやすく説明されました。奄美の特徴として迷チョウが多いことをあげ、その理由として、①他の地域から台風などによって偶然飛来した種、②やや規則的にしばしば飛来するが定着しない種、③人が輸入した植物等に卵や幼虫・さなぎがついてきて羽化した種、などの場合が考えられるとのことでした。また、奄美の代表的なチョウと食草として、アカボシゴマダラのリュウキュウエノキ、ウラギンシジミのエンジュなどを紹介しました。そのほか、自らツマムラサキマダラの幼虫を発見して土着を確認したことや、渡りをすることで有名なアサギマダラなどについて観察時のエピソードを話されました。奄美はチョウの宝庫で、79種類が確認されています。講演後は、参加者からの質問に答えていただきました。

展示会は、森川先生より79種類のうち土着種と迷チョウをあわせて約40種について、標本約180点写真やパネルなど約50点をお借りして、4月28日～6月3日まで開催しました。展示会を訪れた方々から「ツマムラサキ」がとても美しかったなどの感想を多く寄せられました。奄美の蝶の魅力がいっぱい詰まった展示会で、とても好評でした。



◆講演会『奄美大島のマングース問題』

講演会：平成13年5月13日(日)午後2:00～3:30

講 師：山 田 文 雄先生(森林総合研究所・鳥獣生態研究室長)

昨年9月から環境省が開始した移入種「マングース」の本格的な駆除事業の課題や、移入種問題の深刻さを多くの人に知っていただき、一緒に奄美のマングース問題を考えていただけたらと講演会を開催しました。

講演会では、奄美大島に放たれたジャワマングースの分布や形態、生態的な特徴などをスライドを使って解説されました。また、奄美と同様に世界で移入された経緯やその被害などについても紹介されました。奄美での導入は最も新しく、ハブの被害が減少してきている時期に導入されたなどをふまえると十分吟味されて放たれておらず、目的が曖昧であり放獣前も放獣後も検証されていないとのことでした。マングースは環境適応力や繁殖力に優れているそうです。山田先生が自ら行った調査では、マングースのフンの中に希少種の毛が含まれていたことなどが分かったそうです。在来種への影響を考えると、駆除事業をもっと急ぐべきと述べられました。

奄美大島でのマングースを駆除する方法として、ニュージーランドでの希少鳥獣保護の事例を紹介しながら、次の繁殖期までのあいだに駆除(短期決戦)するなど挙げられ、対策として下記を提示しました。

- ①管理体制や駆除体制の一元化。(駆除スケジュールなど自治体の有害鳥獣駆除の連帯)
- ②駆除効果のモニタリング。
- ③効果的な駆除技術や再侵入防止策の研究と開発
- ④在来種の回復と生態系への影響把握。
- ⑤諸外国の情報収集。
- ⑥継続的な予算と労力の確保。
- ⑦広報戦略。

講演会をとおして、一般の方にも問題の深刻さや現状を知っていただける良い機会となりました。

【 講演会のようす 】



◆講演会『ウミガメの話』

講演会：平成13年7月6日(金)午後5:00～6:30

講師：亀崎直樹先生(日本ウミガメ協議会会長)

【講演会のようす】

7月6日奄美野生生物保護センターを始めに、名瀬市、瀬戸内町の3カ所で亀崎先生による「ウミガメの話」と題して巡回講演会を開催しました。講演会では日本におけるウミガメの生活やその環境問題、放流活動における問題点などについて分かりやすくお話ししていただきました。

日本近海ではアカウミガメ、アオウミガメ、タイマイ、ヒメウミガメ、オサガメの5種が分布しており、そのうちオサガメだけ甲羅がなく背や腹は皮膚に被われているという点で他のウミガメとは異なっているそうです。最近の調査から、日本でふ化したアカウミガメは黒潮の流れにのって移動し、アメリカ沿岸で成体になるまで過ごして再び日本に戻ってくると考えられており、性成熟したカメは日本近海やフィリピン、ベトナム南部を回遊しながら繁殖を繰り返しているそうです。そのほかウミガメの産卵についてや、砂浜に残ったカメの足跡からカメの種類を判別できるなど解説されました(下図参照)。また、ウミガメは自然の状態であれば、外敵を避けて夜砂表にでて周囲の暗さより明るい海をめざしますが、海岸沿いに灯りがあると目指す海の方角が分からなくなって、浜をぐるぐる回ってさまよい、海にでられなくなってしまいます。

講演会には小学生も多く参加していたので、時々子供たちに質問を投げかけながら楽しい雰囲気の中に進められ、講演後は子供たちが元気いっぱい質問をしていました。



【 掲載記事 】

◆講演会・企画展示会「奄美の蝶の不思議」

◆講演会「奄美のマングース問題」

◆巡回講演会「ウミガメの話」

地 域 紹 介

コ ー ス

徳之島町

()



§

散策コース §



◆◆◆このコースで見られる主な野生生物◆◆◆

植 物			
動 物			

身近な生きものの情報

野生の生きものの観察日記

§ 2001. 5. 8(火)～6. 17(日) 「アオサギ」が飛来！！

奄美野生生物保護センター横にある池に大きなサギが飛来しました。羽の色が青みがかったグレーで、額の両側から目の上をとる黒色の帯が頭の後方にのびて冠羽になっていて、くちばしと足が黄褐色でした。翼をひろげるとグレーと黒のコントラストがはっきりして目立ちます。図鑑で調べてみると「アオサギ」とわかりました。奄美へは冬鳥または旅鳥として渡来し、少数が越夏するそうです。センター横の池に初めて飛来したのは5月8日（午後2時50分ごろ）小雨がふる日でした。池の近くの空き地におりたつと池の縁へゆっくりと近づき、しばらくじーっとしていました。写真を撮るために近づくと、大和川へ飛んでいきましたが30分ほどして戻ってきました。池の中で採餌したあと近くの空き地で休止。翌日も午前中に一度、午後一度飛来しました。天気の良い日で池の水が干上がっていても近くの草むらで、エサを探し求めて歩いたり、ジーと目を閉じて休んだりしていました。近づくとすぐに飛び去ってしまう神経質なアオサギのご機嫌をそこनावないように・・・，と連日訪れたアオサギをフィールドスコープで覗きながら観察をする毎日でした。

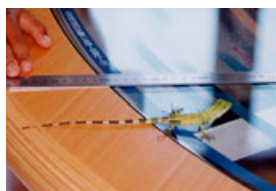


下り立った時の足跡



§ 2001. 6月～8月 この時期よく見かける「キノボリトカゲ」

この時期「キノボリトカゲ」の目撃情報が多く集まります。小学校の庭や民家の庭先、路上など身近なところでよく目撃されています。環境省のレッドデータによると絶滅危惧種Ⅱ種に指定されています。センター近くの草むらでも目撃されました。地元の小学生が「学校の庭にいたよ」、「帰り道で見つけたよ」といってよくセンターに駆けこみます。キノボリトカゲの子供などを見つけてはしっぽをもってぶらぶら宙ぶらりんにして持ちこみます。絶滅のおそれのあるトカゲなんだと話すと、「よく見かけるよ」と不思議そうな顔をします。しばらく箱の中に入れて観たり、キノボリトカゲのためにとアスレチックのようなものを作ったり・・・，遊んだ後は自然にかえしてあげました。



◆奄美大島情報（寄せられた情報の一部です）

夏に見られる野生生物

※参考文献：琉球孤野山の花園

：図鑑奄美の野鳥

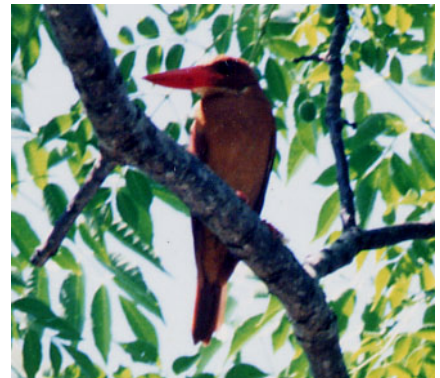
：山溪ハンディ図鑑7

：東洋のガラパコス

：沖縄の蝶 など

【 **リュウキュウアカショウビン** 】 ブッポウソウ目・カワセミ科（全長 27.5 cm）
生息分布：南西諸島 方言名：クックルー，クッカル

アカショウビンの亜種。夏鳥として南西諸島に広く生息し、全体の羽の色は亜種アカショウビンより濃い。特に上面の青紫色の光沢が強く、腰の水色も鮮やかである。天然林や川沿いの林でカニやカエル、トカゲ、魚などを捕らえて食べる。土や柔らかい木に穴をあけて営巣する。オス、メスほぼ同色。本土ではかなり深い森に繁殖しているが、奄美では生息密度が高く、民家の木や海岸近くの小さな林などでも繁殖している。島民にもなじみが深く奄美の民話にもよく登場する鳥だそうである



生息時期： 4月～9月

鳴き声：キョ□□□□～，キョ□□キョ□□，ケケケ…など

【 **キノボリトカゲ** 】 アガマ科 （頭胴長約6～8 cm前後） **絶滅危惧種Ⅱ種**
生息分布：奄美諸島，沖縄諸島

尾が体長の半分以上を占めるほど非常に長い。頭胴長はオスで7～8 cm前後，メスは6～7 cm前後。全身が鱗に覆われており、背面の体色は鮮やかな緑から褐色まで周囲の環境に応じて著しく変化させる。森林以外に、民家の庭木でもよく見る。昆虫食で、中でもセミを好んで食べるのでセミの鳴き声をたよりに近づけば発見できる確率が高い。樹上を狂ったように走り回ったり、忍び足で歩いたり、仲間と会えばペコペコと頭を下げて相手を威嚇し、陽の当たる場所では気に入ったら何時間でも同じ姿勢をしている変わり者らしく、樹上の道化師といわれている。樹上生活に適したキノボリトカゲは、人が近づくと木の幹をらせん形に回って裏側に隠れる。昆虫類のタマムシや鳥類のキツツキ、キヌザル科のマーモセットなどにも見られる。



【 シマサルスベリ 】 ミソハギ科

生息分布：奄美大島，喜界，徳之島

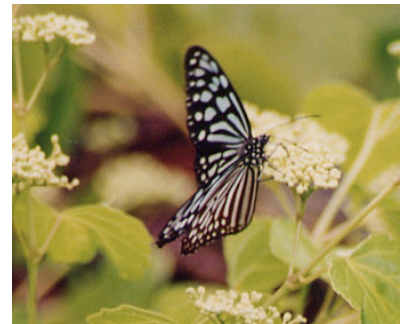
低地から山地の溪流沿いや谷すじに生える陽性の落葉高木。樹皮はよく剥離したあとが白色の斑紋状になって残るので樹幹だけでも識別ができる。葉柄は長さ2～10mmで、葉身は長さ3～12cm。花序の枝には短毛が密生し、若枝には開出する短毛がある。花は白色。さく果は楕円形で長さは7～10mm。屋久島や種子島に分布する変種のヤクシマサルスベリは葉が卵状長楕円形で先が鋭尖頭からやや尾状にのび、枝や花序に毛が少なく花柄は8～10mmと長い。サルスベリは中国原産で大木にならず小枝は無毛で狭い翼があり、葉が鈍頭または円頭で無柄なので区別がつく。



【 リュウキュウアサギマダラ 】 マダラチョウ科 （前ばねの長さ 45 ～ 50 mm）

分布：奄美大島以南の琉球列島，台湾，東南アジア

アサギマダラに比べて斑紋がやや細かく、色は水色を帯びている。食草はツルモウリンカで特に海岸近くに多い。冬期に越冬集団をつくる習性があり、林内の風が弱く、細いつるが多くたれ下がっているような場所におり、数十から時には数百もの集団を形成しているのが観察されている。生育に特に適した環境と思われる場所では、半径500m程の範囲に数百頭ものチョウが確認されている。



§ 訂正とお詫び

ニュースレター第4号（春号1）・13頁の第56回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」のキャッチフレーズに採用された方の学校名（漢字）に誤りがありました。五平中学校とありましたが、正しくは吾平中学校です。失礼をいたしました。

編 集 後 記

毎日暑い日が続いていますが、夏バテなどで体調などを崩されてはおりませんか？冷房の効いた屋内に慣れた体はひとたび屋外へでたとたん熱気に圧倒されてしまいますが、燦々とふりそそぐ太陽のもと元気に咲く花々が元気を与えてくれます。夏はやっぱりいいですね。わくわく心がおどります。とてもにぎやかです。

編集・発行：奄美自然体験活動推進協議会事務局

- ☐ 〒894-3192
鹿児島県大島郡大和村大和浜100
大和村役場 企画課
TEL: 0997-57-2111
- ☐ (連絡・書類等送付先)
〒894-3104
鹿児島県大島郡大和村思勝字腰ノ畑551
奄美野生生物保護センター内
TEL: 0997-55-8620
FAX: 0997-55-8621

